

松の緑を守り育てるために

# 松くい虫抵抗性マツ苗誕生



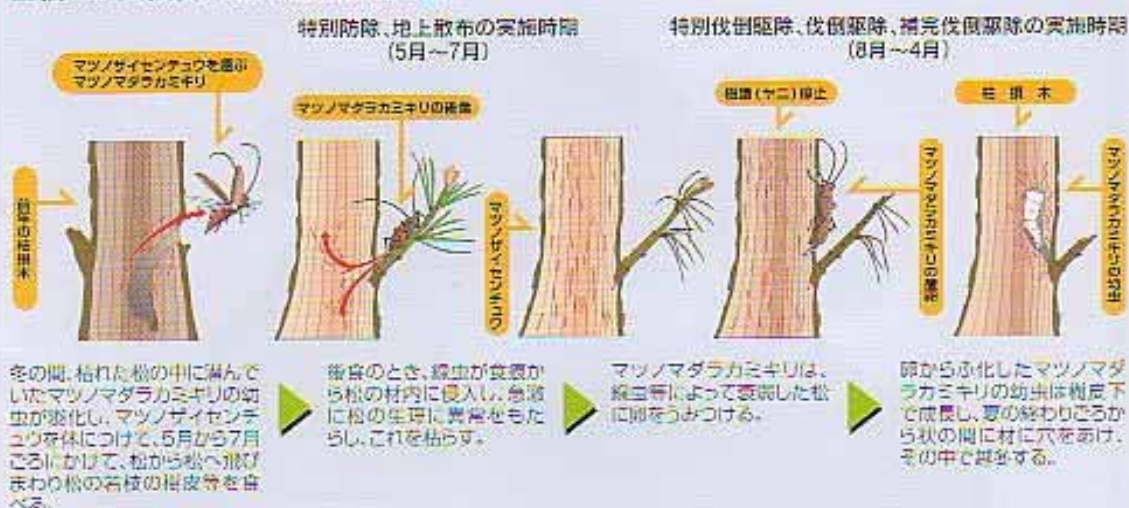
佐賀県

# 『松くい虫抵抗性マ』

## Q1 マツはどうして枯れるの？

**A** 「松枯れ」や「松くい虫被害」といわれている松の枯損現象は、マツノザイセンチュウという、長さが1ミリもない「線虫」が健全なマツの木の中に侵入し、増殖してマツの生理異常をもたらす病気（松材線虫病）によるものです。  
この線虫は、マツノマダラカミキリというカミキリ虫の「運び屋」により広がっていきます。

### ■松くい虫被害発生の過程（模式図）



## Q2 枯れないマツはないの？

**A** 九州各県の松くい虫被害地の中から、枯れずに残っていたマツの中からアカマツ11,446本、クロマツ14,656本を選び出しました。  
①その選り出したマツに、マツノザイセンチュウを人工接種したところ、アカマツ92本(0.8%)、クロマツ16本(0.1%)が枯れずに合格しました。  
②その合格した、マツからつぎ木で採種圃を造成し、その種から育てた苗木にマツノザイセンチュウを再び人工接種したら、アカマツで61本中39本(63.9%)が生き残り、クロマツでは、139本中35本(25.2%)が生き残りました。

区分	樹種	アカマツ	クロマツ
接種本数		61本	139本
健全苗数(率)		39本(63.9%)	35本(25.2%)
葉の変色数(率)		1本(1.7%)	2本(1.4%)
半枯れ数(率)		11本(18.0%)	44本(31.7%)
全枯れ数(率)		10本(16.4%)	58本(41.7%)

資料:佐賀県林業試験場

# 『マツ』ってどんなマツ

## Q3 抵抗性マツ苗はどのようにして生産されるの？



**A** 図のように、森林所有者のみなさんに出荷するときは、マツノガイセンチュウを人工接種し、合格したもの（生き残ったもの）だけをお届けするようにしたものです。「マツは植えても枯れてしまうから」と思われがちですが、このようにして誕生した抵抗性マツを植えて、日本の代表的な風景「松林」を育てましょう。

佐賀県では「抵抗性マツ」苗木による松枯れゼロを目指し、国等の関係機関と連携をとりながら、さらなる抵抗性マツ苗の育林技術の向上及び普及拡大に向けて試験研究を進めています。